

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第7回
議事要旨**

1. 日時 平成15年4月11日(金) 10:00~12:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 中西副委員長, 水谷副委員長, 相澤委員, 古賀委員, 輿水委員, 柴田委員, 関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 福田委員, 山崎委員
4. 会議の概要

(1) 第1回最終発表の確定作業について

4月25日の最終発表の形式について, 次のようにまとめることとした。

イ. 言い換え提案冊子と補助資料を, 報道機関に配布する予定である。

ロ. 言い換え提案冊子に, 新たに「資料の利用に関する留意事項」を掲載することとした。

ハ. 「ノーマライゼーション」については, この語を十分に検討する場がなかったので, 第2回中間発表に掲げていくこととした。

(2) 第2回中間発表に向けての作業について

第2回の言い換え作業, 中間発表までの日程案が示され作業手順が検討され, 2月の委員会で選定された56語について参考資料をもとに作業して, 6月下旬までに言い換え語の確定作業と中間発表原案を作成, 7月中旬に中間発表案を確定し, 8月初め中間発表を行うこととした。

(3) 会議での主な意見

英語で「ノーマライゼーション」と言うときにはかなり狭い範囲での専門用語のようで, 英語でも誰もが分かる言葉ではないようである。

「ノーマライゼーション」は, これまで日本にない概念であるから, これまで使われているような言葉で言い換えるより, まったく新しい言葉を作るというのも一つの方法ではないか。ほかの言葉と比べて練り上げられてきた度合いが小さいので, 一度中間発表して, 議論していくことが必要ではないか。

カタカナ表記で, ナカグロが入っているものと入っていないものがあるのでどちらかに統一した方がよい。

新聞社では, 2語の連語はナカグロを入れない。3語以上は入れるようであるが, 例えば「シンクロナイズド・スイミング」というように, あまりにも長すぎるものには入れるようである。

英語と比べた時に, ナカグロが入っているものと入っていないものとで疑問を感じないように, 取り上げた語の一覧表に記載したままの方がよい。

長音については, 新聞等では長音をつける形に殆ど統一されているが, 新聞以外ではつけない方がだんだん増えてきているようである。

今回はなかったが, V音のウ濁の外来語が出てきた場合に, さらに問題となるような気がするので, 念頭に置いた方がよいと思う。

この委員会では, 外来語をどれだけ日本語で置き換えられるか, 言い表せるかということを行っているが, 日本語, 或いは日本人の言葉はこの先どうなるのか,

「ノーマライゼーション」、「インフォームドコンセント」などの実務的な英語がどんな形で一体どれくらい入ってくるのか考えてしまう。

この委員会の提案が、どのくらい影響力をもつのか。「マニフェスト」などの言葉が出て、イタチごっこをしているようでむなしい思いもあるが、少し長い目で見て日本がどうなるのかという観点から仕事をしているのだということを、大方の方に理解していただきたい。

20代の人達の、外来語が分かる、身近だということの中身が一体何なのか。本当に分かって、把握して、それで近いということなのか。もしかしたら、ずれていて、たまたま接触時間が多いから分かっていると言っているかなど、一歩踏み込んだことを知りたい。

以上